

鹿児島島の動物29

このよるよるとした動物の正体は!?

この写真のよるよるとした、ひものよるよる動物を見たことがありますか？写真のものは長さは20cm程度です。



これはコウガイビル(筭^{こうがいびる}蛭^{へんけい})という、扁形動物の仲間です。筭^{こうがい}とは、江戸時代頃まで盛んに利用された女性の髪飾りであり、また髪結いの道具です。現在では、なじみが薄い感じがしますが、お相撲さんの鬘^{まげ}を結^{むす}うのにかかせない道具とされています。この筭^{こうがい}に、姿や頭部が似ていることから名付けられたといわれています。

動物担当 山田島 崇文
体の大きさは長さが10cm から30cm で、幅は大きくても1cm を越えません。厚みは数mmで、平たく細長い体をしています。また、名前にビルとついています。環形動物のあの血を吸うビルとは全く異なった動物です。

コウガイビルは、ふつう湿った土壌、石の下、朽ち木の中など、陸上の湿ったところにすんでいます。そのため、ときどきお風呂場など家の中に出没することがあります。夜間に湿った所を動き回り、ミミズやナメクジなどを捕まえて食べます。

近年、九州北部などで、外来種のオオミスジコウガイビルという大型種が侵入しています。こちらは50cm ~ 1m近くなります。もし、長いコウガイビルを見かけられたら、博物館(電話番号; 099-223-6050)に御一報ください。

鹿児島島の地質27 かごしま化石発見伝

~ 下甌島の化石 地質担当 鈴木 敏之

鹿児島県の甌島列島には、熊本県宇土市や天草市などの九州南西部に100km以上にわたって分布する中生代白亜紀後期の地層「姫浦層群」が見られます。2008年に下甌島でこの姫浦層群の地質調査をしていた熊本大学大学院生が、地層の中から獣脚類恐竜(肉食恐竜)の歯の化石を発見しました。

その後の調査で、獣脚類恐竜の肋骨やカメの甲羅、ワニの皮骨板や歯、所属不明の骨片などが見つっています。見つかった歯と肋骨の化石は別々の種類の個体の可能性もあり、この地層ができた頃には全長3m以上の

肉食恐竜がいたことが証明されました。

姫浦層群からは、これらの恐竜化石のほかにもアンモナイト、イノセラムスなどの二枚貝、巻貝、ウニなどの海生の動物化石、及び植物化石が見つっています。

この地層の堆積環境は、河川や河口周辺の干潟から内湾、波の影響が大きい沿岸域、さらには大陸棚斜面や海盆とよばれる比較的深い海域と様々だったと考えられています。

今回、甌島で見つかった恐竜は、日本国内では絶滅の時期に近い時代のもの(約7000万年前)です。甌島に肉食恐竜がいた頃には、きっとそのエサとなる草食の恐竜等もいたにちがいありません。

恐竜に関する研究は今、始まったばかりですが、今後の発掘調査や研究によって新たなことがわかるかもしれないと思うとワクワクします。



下甌島鹿児島で産する貝化石

